

令和5年度第2回大口町子ども・子育て会議

日時：令和6年2月19日 月曜日

13時30分～14時30分

場所：大口町健康文化センター1階
機能回復訓練室

事務局（課長）：[あいさつ・資料確認]

[欠席委員報告] 額額委員（子育て支援団体代表）

次第1：多川会長あいさつ

多川会長：[あいさつ]

次第2：協議事項

「大口町子ども・子育て支援についてのアンケート」実施報告について

事務局：[資料1 説明]

多川会長：この件について、ご意見、ご質問はあるか。

藤田委員：「大口町子ども・子育て支援事業計画」策定に向けて、令和6年12月頃にパブリックコメントを実施予定とのことだが、実施期間と方法は。実施期間は年末年始に被るのか。

事務局：実施期間は2、3週間、年末年始より前に実施する予定。実施方法については、本庁舎に資料の閲覧スペースを設け、ホームページにも掲載する予定。実施した結果を大口町子ども・子育て会議に挙げ、いただいたご意見を修正案に盛り込み、計画案を固めていく。

多川会長：今回の調査では、回答率が前回よりも20%程度低下したとのことだが、紙面回答が1件だったこと、また、紙面回答では記載ミスにより回答が無効となることもありうるため、WEB回答とした意義は大きかったと思う。事務局にとって、調査の回答率が低下したことによる弊害はあるか、また、WEB回答を実施した感想をお聞きしたい。

事務局：回答率低下による弊害については、データ集計中のためわからない。

回答率についてはおっしゃる通りで、WEB回答であれば、本来回答すべきでない箇所への記載等のミスが起こりえないので、無効となる回答を減らすことができると思う。

次回の調査（5年後実施予定）では、回答率を上げるために、調査の意義、調査がどのように計画策定にかかわっていくのかを、事前に周知できたらと考えている。

多川会長：実際に回答された感想や周りの保護者の声などがあれば、お聞きしたい。

石木委員：WEB上の回答フォームで入力していたが、選択肢がタップできない部分、文字が重複して読めなかった部分があった。端末側の問題か、回答フォーム自体に問題があったのかはわからない。

事務局：回答者の端末や回答時の環境等に、影響を受けたのではないかと推察される。

次回調査では、精度を上げられるようにしたい。

森井委員：WEB回答だったので、紙面よりも回答しやすかった。

千田委員：一部の保護者からは、「アンケートを実施する意味がわからない。面倒なので回答したくない」という声もあった。

事務局：次回の調査では、調査の意義、調査がどのように計画策定にかかわっていくのかを、事前にご理解いただけるよう周知したい。

多川会長：計画策定のためのアンケート調査です、と言われても、保護者には意図が伝わりにくいと思う。困ったときに質問できる場所があるとよい。

大塚委員：昨今は様々な大学、企業等がアンケート調査を行っているので、保護者が調査に対して、疑問を覚えることがあると思う。保育園等に在籍していない保護者には、アンケートの案内を郵送したとのことだが、郵送だけでなく、調査実施について周知する方法を考える必要があると思う。

[協議終了]

次第3：その他

事務局：[資料2「こども家庭センターについて」 説明]

江口委員：学校では、要保護児童対策地域協議会（以下、要対協）に上がっていない家庭についても、ケアの難しさを感じている。子育て世帯訪問支援事業は、要対協に上がっていない家庭も利用可能なのか。

事務局：要対協に上がっていない家庭も対象となるように、調整していきたい。

要対協は、児童虐待が発生している、発生の恐れがある家庭について、警察や児童相談所と連携をとっているが、要対協に上がっていない家庭についても、学校等から随時情報をいただきながら、早期解消につなげられたら、と考えている。

江口委員：事務局の説明を聞いて、大変心強いと思った。

外国籍の家庭も増えているが、外国籍の家庭へのケアや支援策はあるか。

事務局：例えば児童の両親が日本語を話せず、児童に通訳をお願いしている場合は、ヤングケアラーに当てはまると言える。そのような家庭も子育て世帯訪問支援事業で支援していきたい。

岩根副会長：統括支援員とは何か。詳しくお聞きしたい。

事務局：大口町には、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持った職員が在籍している。

その職員に、愛知県にて統括支援員についての研修を受講してもらい、こども家庭センターの統括支援員として従事してもらう。これから養成していくことになる。

事務局：[資料3「子育て支援センター、児童センター及び放課後児童クラブの運営状況について」 説明]

事務局：[資料4「親子通園ぱんだ教室の運営状況について」 説明]

岩根副会長：子育て支援センターの「さくらっこタイム」「さくらっこサロン」は、どのくらいの頻度で実施しているか。

事務局：「さくらっこタイム」は毎日、「さくらっこサロン」は当日の利用状況などに応じて、随時お悩み相談や、お母さん同士が交流できる場を設けている。

丹羽委員：大口町では、放課後児童クラブの利用料金を月額1,500円で長年据え置きしているとのことだが、他市町よりも安価である。今後も、人件費や物価高騰等の昨今の情

勢、周辺市町の状況を踏まえて、子育て支援策を検討して行ってほしい。

多川会長：最後に「子ども・子育て支援事業計画」策定に向けて、意気込みをお聞きしたい。

事務局：大口町の子どもの出生数は減少傾向にあるが、共働きの家庭が増えたことにより、放課後児童クラブなどのニーズは増加傾向である。現在、大口西児童クラブは、令和6年度の園舎新築に向けて準備を進めている。「子ども・子育て支援事業計画」についても、各事業のニーズとのバランスを見つつ、進めていきたい。